

**九州地方整備局事業評価監視委員会（平成14年度 第4回）**  
**議 事 概 要 （ 速 報 ）**

日 時 平成14年12月16日（月）13：00～16：00

場 所 福岡市博多区 ホテルセントラータ博多 花筐の間（3階）

**出席者**

- ・ 委 員 榑木委員長、吉田副委員長、赤崎委員、浅野委員、今村委員、大谷委員、小野委員、中川委員、山崎委員  
（欠席委員：矢田委員、山本委員）
- ・ 整備局 渡邊局長、井福副局長、菊田副局長、大原総務部長、川崎河川部長、小原港湾空港部長、野村営繕部長、溝本用地部長 他

**資 料**

- ・ 資 料 - 1 議事次第
- ・ 資 料 - 2 九州地方整備局事業評価監視委員会（平成14年度 第4回）出席者名簿及び座席表
- ・ 資 料 - 3 九州地方整備局事業評価監視委員会 委員名簿
- ・ 資 料 - 4 平成14年度 第4回 事業再評価  
（河川1事業、ダム1事業、港湾2事業、道路6事業）
- ・ その他資料 嘉瀬川直轄河川改修事業 参考資料  
港湾事業参考資料：博多港パンフレット  
道路事業参考資料：道路事業における費用便益比（B / C）の算出方法  
浮羽バイパスパンフレット、巖木バイパスパンフレット、川尻バイパスパンフレット、別大拡幅パンフレット、柿ノ木峠パンフレット、早崎防災パンフレット

**議 事**

1. 開 会
2. 審 議

（1）平成14年度 第4回 再評価

- 1）河川事業（1事業）の説明、審議  
・ 嘉瀬川直轄河川改修事業
- 2）ダム事業（1事業）の説明、審議  
・ 嘉瀬川ダム建設事業
- 3）港湾事業（2事業）の説明、審議  
・ 博多港（アイランド・シティ地区）国際コンテナ・ミナル整備事業  
・ 万関瀬戸航路整備事業
- 4）道路事業（6事業）の説明、審議  
・ 一般国道210号 浮羽バイパス  
・ 一般国道203号 巖木バイパス  
・ 一般国道 3号 川尻バイパス  
・ 一般国道387号 柿ノ木峠  
・ 一般国道 10号 別大拡幅  
・ 一般国道220号 早崎防災

3. その他
4. 閉 会

## 審議結果

### 1. 平成14年度 第4回 事業再評価

事務局より再評価対象事業（河川事業1事業、ダム事業1事業、港湾事業2事業、道路事業6事業）について説明し、審議を行った。

#### （1）河川事業

1) 【嘉瀬川直轄河川改修事業】 . . . 継続  
審議の結果、対応方針（原案）どおり、事業継続で了承された。

#### （2）ダム事業

1) 【嘉瀬川ダム建設事業】 . . . 継続  
審議の結果、対応方針（原案）どおり、事業継続で了承された。  
なお、前回委員会で議論された費用対便益(B/C)の検討のあり方については、他の事業にも関連する課題であるため、全体の事業に関する事項として、委員会の意見を示すこととされた。

#### （3）港湾事業

1) 【博多港(アイランド・シティ地区)国際コンテナミナル整備事業】 . . . 継続  
審議の結果、対応方針（原案）の「早期」を削除することにより事業継続で了承された。

##### 委員からの主な意見

- ・ 北部九州の貨物については、国内外の物流に関し今後の利用動向を踏まえて適宜見直すこと。
- ・ 北九州港と博多港の連携等についても視野に入れること。

2) 【万関瀬戸航路整備事業】 . . . 中止  
審議の結果、対応方針（原案）どおり、事業中止で了承された。

#### （4）道路事業

1) 【一般国道210号 浮羽バイパス】 . . . 継続  
審議の結果、対応方針（原案）どおり、事業継続で了承された。

2) 【一般国道203号 巖木バイパス】 . . . 継続  
審議の結果、対応方針（原案）どおり、事業継続で了承された。

- 3) 【一般国道 3号 川尻バイパス】 . . . 継 続  
審議の結果、対応方針（原案）どおり、事業継続で了承された。
- 4) 【一般国道387号 柿ノ木峠】 . . . 継 続  
審議の結果、対応方針（原案）どおり、事業継続で了承された。
- 5) 【一般国道 10号 別大拡幅】 . . . 継 続  
審議の結果、藤原地区の を実情を踏まえて一部修正することで対応方針（原案）どおり、事業継続で了承された。
- 6) 【一般国道220号 早崎防災】 . . . 継 続  
審議の結果、対応方針（原案）どおり、事業継続で了承された。

## 2 . 全体の事業に関する事項

事業主体が複数に分れる事業の費用対便益（B / C）については、各事業主体個々の結果等の情報を的確に把握し事業評価に反映する手法を検討することを望む。

# 九州地方整備局事業評価監視委員会（平成14年度 第4回） 議事概要（議事録）

日時 平成14年12月16日（月）13:00～16:00  
場所 福岡市博多区 ホテルセントラータ博多 花筐の間（3階）

出席者

- ・委員 榑木委員長、吉田副委員長、赤崎委員、浅野委員、今村委員、大谷委員、小野委員、中川委員、山崎委員  
（欠席委員：矢田委員、山本委員）
- ・整備局 渡邊局長、井福副局長、菊田副局長、大原総務部長、川崎河川部長、小原港湾空港部長、野村営繕部長、溝本用地部長 他

資料

- ・資料 - 1 議事次第
- ・資料 - 2 九州地方整備局事業評価監視委員会（平成14年度 第4回）出席者名簿及び座席表
- ・資料 - 3 九州地方整備局事業評価監視委員会 委員名簿
- ・資料 - 4 平成14年度 第4回 事業再評価  
（河川1事業、ダム1事業、港湾2事業、道路6事業）
- ・その他資料 嘉瀬川直轄河川改修事業 参考資料  
港湾事業参考資料：博多港パンフレット  
道路事業参考資料：道路事業における費用便益比（B/C）の算出方法  
浮羽バイパスパンフレット、巖木バイパスパンフレット、  
川尻バイパスパンフレット、別大拡幅パンフレット、  
柿ノ木峠パンフレット、早崎防災パンフレット

議事

1. 開会
2. 審議（平成14年度第4回 再評価）
  - 1) 河川事業（1事業）の説明、審議  
・嘉瀬川直轄河川改修事業
  - 2) ダム事業（1事業）の説明、審議  
・嘉瀬川ダム建設事業
  - 3) 港湾事業（2事業）の説明、審議  
・博多港（アイランドシティ地区）国際コンテナミナル整備事業  
・万関瀬戸航路整備事業
  - 4) 道路事業（6事業）の説明、審議  
・一般国道210号 浮羽バイパス  
・一般国道203号 巖木バイパス  
・一般国道 3号 川尻バイパス  
・一般国道387号 柿ノ木峠  
・一般国道 10号 別大拡幅  
・一般国道220号 早崎防災
3. その他
4. 閉会

審議結果

1. 平成14年度 第4回 事業再評価  
事務局より再評価対象事業（河川事業1事業、ダム事業1事業、港湾事業2事業、道路事業6事業）について説明し、審議を行った。

## **(1) 河川事業**

### **1) 嘉瀬川直轄河川改修事業**

審議の結果、対応方針(原案)どおり、事業継続で了承された。

## **(2) ダム事業**

### **1) 嘉瀬川ダム建設事業**

審議の結果、対応方針(原案)どおり、事業継続で了承された。

なお、前回委員会で議論された費用対便益(B/C)の検討のあり方については、他の事業にも関連する課題であるため、全体の事業に関する事項として、委員会の意見を示すこととされた。

委員からの主な意見は、次のとおり。

- 【事務局説明】 = = = = =
- 前回委員会で検討課題となっていた費用対便益(B/C)について、前回の委員会では、治水のみを対象に算出していたが、国土交通省負担分には「流水の正常な機能の維持」も含まれるため、両者を合わせて算出した。結果、4.7が2.6となった。また、他の事業について聞き取りを行った結果、
- ・かんがいについては、平成13年2月に1.14という評価がなされているが、基本計画見直し後の検討は行われていない。
  - ・大和町の水道用水については、平成11年度の水道事業運営委員会において継続となっている。
  - ・富士町の水道用水については、平成11年度の簡易水道事業再評価委員会において継続となっている。
  - ・工業用水、発電については、検討されていない。

今後の多目的ダムのB/Cの算出に当たっては、各事業主体個々の結果及びダム全体の結果について算出することを検討してほしい。この意見を、本日の委員会の付帯意見としてほしい。

上記の意見はダム事業に関わらず、委員会審議全体に関わる意見ととらえた方が良いと思われる。また、この委員会は、国土交通省の事業評価を行うもので、国土交通省が他事業と合わせて評価するには限界があると考えます。

嘉瀬川直轄河川改修事業及び嘉瀬川ダム建設事業については、対応方針(原案)を認め、そのうえで「全体の事業に関する事項」として、

- ・事業主体が複数に分かれる事業の費用対便益(B/C)については、各事業主体個々の結果等の情報を的確に把握し事業評価に反映する手法を検討することを望む。ということを示すこととする。

### (3) 港湾事業

#### 1) 博多港(アイランドシティ地区)国際コンテナターミナル整備事業

審議の結果、対応方針(原案)の「早期」を削除することで、事業継続が了承された。

委員からの主な意見

博多港と北九州港の位置付けは、どのようになっているのか。

事務局：下関、北九州、博多で現在100万TEU。そのうち北九州港が約40万TEUで、主に北九州、東九州及び山口地域が背後圏である。博多港については、約50万TEUで、主に福岡及び西九州地域が背後圏であると考えており、地域的な分担はそれなりに見られる。将来、1.6倍の160万TEUを予測している。過去の経緯からみても順調に推移していくものと思われるが、両者とも貨物を集める努力をしている。それぞれ今後の推移をみながら見直していく。

将来推計について、博多港が低い数字に抑えられているのが残念であり、伸びてはいるが、数年後北九州港に抜かれる推計となっている。当初は香椎パークポートで扱われ、それ以上がアイランドシティで取り扱われることとなっているが、航路別に算出されている意味はなにか。

事務局：貨物分担については、港湾計画見直しの中で議論していく予定である。博多港内の分担については、アイランドシティが14m岸壁なので船の大きいものを、香椎パークポートは13m岸壁なので小さいものと考えている。

費用対効果の計算期間が50年間であるが、推計値が2010年までしかなく、2010年以降の推計はどうなっているのか。

事務局：計算上は2010年の貨物量のままで推移すると考えている。

なお、近年5年間の伸びを見込むと2010年は110万TEUとなり、今回採用した64万TEUより伸びており、いずれにせよ適切な費用対効果があると考えている。

博多港だけで議論しているが、博多港が増えているのは北九州港の貨物が移動しているのではないかと考えている。博多港が14m岸壁、北九州港が15m岸壁で進んでいるが、人工島で15m岸壁を造った方が今のトレンドにのるのではないかとと思われるが、15m岸壁に一気にいかないのか。

今の東アジアでの競争を考えた場合、博多港だけでは太刀打ちできず、下関港を含めた北部九州一体で考える必要があるのではないかと。

事務局：アイランドシティについては、着工時の13m岸壁を計画において14m岸壁に変更し整備を進めているが、15m岸壁までは構造上難しい。なお、当地区で15m岸壁を2バースの計画がある。

事務局：博多港、北九州港の分担の議論については、つきつめていけば広域連携となる。北九州港は横這いとなっているが、博多港は大消費圏というパワーを控えており増加している。阪神大震災以降、神戸を利用するのではなく、

地元港を利用するようになってきている。香椎は、北九州港太刀浦より大きな施設であるので伸びているところもある。北九州港においては響コンテナターミナルが整備されれば施設の制約が無くなるしトランシップを扱う予定であり、期待している。

過大投資は適切ではないので、需要を見ながらとなるが、釜山に対抗する港として、博多港、北九州港単独では難しい可能性が高いので、両者の量、質的な競争を図りつつ両港の連携を考えていく必要がある。

対応方針(原案)について、引き続き「早期供用」となっているが、北九州港の推移等を勘案しながらという意味では、「早期」を外したうえで「事業継続」を了承する。

## 2) 万 関 瀬 戸 航 路 整 備 事 業

審議の結果、対応方針(原案)どおり、事業中止で了承された。

委員からの主な意見

補償問題も難航しており、中止が妥当と考える。

中止とした場合の手続きはどうなるのか。

事務局：事業を中止とすることについては、関係者へ説明を行い了解を得ている。

今まで投資した費用はどのくらいか。

事務局：平成9年度迄に約4億円の投資をした。内容は、環境、潮流等の調査費と橋梁架け替えの負担分1億7～8千万円となっている。

対応方針については、原案どおり「事業中止」で了承する。

## (4) 道 路 事 業

### 1) 一般国道210号 浮羽バイパス

審議の結果、対応方針(原案)どおり、事業継続で了承された。

委員からの主な意見

圃場整備と併せて事業を行っている理由はなにか。

また、工事の進め方で、中抜き部分が2ヶ所ある。中抜きを作るような進め方は効率が悪く、進め方を改善するほうが望ましい。

バイパス計画時に既に圃場整備の計画があったのか、時系列的な経緯を説明願いたい。また、埋蔵文化財については、予測できなかったのか。

事務局：圃場整備と一緒に行うことで、用地買収がやりやすく、水路の付け替え等圃場の区画を見直す手間が省けて事業効率も良くなる。

バイパスは、昭和48年度に事業化して、52年には用地買収に着手している。したがって、バイパスの方が圃場整備の事業を待ちながら事業を進めてきた。

事業の進め方については、できれば端から、あるいは渋滞しているところから、あるいはアクセス道路があるところから整備を進めるのが基本であるが、本事業の場合は、圃場整備の関係や朝倉インターからのアクセスにも配慮する形で事業を進めた。埋蔵文化財については、ルート決定の際に既存文献等で避けるように計画するが、実際には用地買収した区域に埋蔵文化財があるかないかは、掘ってみないと判らない。

用地買収率の65%は低いと思うが、圃場整備と並行して事業を行ったことが、結果的に買収率を下げるようになっていないか。

事務局：これまでは圃場整備の区域を先行してきた。残っている個所は、圃場整備が行われていない区域である。

本バイパスには歩道橋はないが、今後バイパスの設計をする場合は、人間が優先だという観点から、歩道橋を設置するのではなく、車道を上にあげる設計にしてもらいたい。

杷木インターから久留米インターまでの料金を下げた場合、浮羽バイパスの交通量がどう変化するかを試算してもらいたい。

本事業の特徴は、圃場整備との連携があり、今後の参考になるデータが得られるものとする。また、高速道路と並行しており、料金施策等を考慮し、バイパスのあり方で新しい展開を示すこともあり得る。これらは、今後の課題として検討のうえ、公表してもらいたい。

なお、対応方針については、原案どおり「事業継続」で了承する。

## 2) 一般国道203号 巖木バイパス

審議の結果、対応方針(原案)どおり、事業継続で了承された。

### 委員からの主な意見

自動車専用道路は、役場等の主要個所を通らないため、路線バス等の大型車は依然として現道を通る。こういった状況をどこまで改善できると考えているのか。

事務局：3分の1程度の交通が現道に残ると推計している。大型車の割合については、今後つめていきたい。

事務局：直轄で行っている自動車専用道路については、公団と違い、インターを多くつくるという考えで事業を行っており、巖木バイパスについては、概ね2km間隔でインターを設置するため、地元密着型といえる。

対応方針については、原案どおり「事業継続」で了承する。



### 3) 一般国道 3号 川尻バイパス

審議の結果、対応方針(原案)どおり、事業継続で了承された。

委員からの主な意見

供用に向けて事業を推進するということで、対応方針については、原案どおり「事業継続」で了承する。

### 4) 一般国道387号 柿ノ木峠

審議の結果、対応方針(原案)どおり、事業継続で了承された。

委員からの主な意見

この地域(温見川)は、九州で唯一のオオサンショウウオの生息地であるため、情報収集に努めてもらいたい。

事務局：道路計画位置から約2km下流で生息を確認しているが、引き続きフォローアップしていきたい。

地山の状況は、現在でも観測を続けているのか。こういう工事は、適切な技術力を維持するためにもやらなければならないのではないか。

事務局：着手以来観測を続けており、現在の工法で大丈夫であろうという判断をしている。

対応方針については、原案どおり「事業継続」で了承する。

### 5) 一般国道 10号 別大拡幅

審議の結果、対応方針(原案)の藤原地区の を実情を踏まえて一部修正することで、事業継続が了承された。

委員からの主な意見

別大マラソンは、新しい道路で行うのか。また、走る人の意見も聞いたのか。

事務局：来年の2月までは今の道路を使い、その後切り替えを行う。次の年からは新しい道路で行う。また、マラソン関係者と年1~2回打ち合わせをしている。

対応方針(原案)の「藤原地区の 」で、空港周辺のプロジェクトが不調な中で、効果があったというような表現になっているが。

事務局：日出バイパスの開通に伴う交通量の増大を見込んでいたが、実際は開通後1,000台程度しか増えておらず、当面、堀交差点の交差点改良がなさ

れば渋滞はほぼ解消する。ただし、地元に対して都市計画時の説明をしているので、買収請求等には応じながら交差点改良に限定して事業を行っていきたい。

そういう意味なら、「交通量の増大に」という個所を「増大」を削除して、「交通への対応」とした方が良い。そのうえで「事業継続」を了承する。

## 6) 一般国道220号 早崎防災

審議の結果、対応方針(原案)どおり、事業継続で了承された。

委員からの主な意見

対応方針については、原案どおり「事業継続」で了承する。

### 2. 全体の事業に関する事項

事業主体が複数に分れる事業の費用対便益(B/C)については、各事業主体個々の結果等の情報を的確に把握し事業評価に反映する手法を検討することを望む。

《問い合わせ先》	国土交通省 九州地方整備局
	TEL 092-471-6331(代表)
事業評価全般	
地方事業評価管理官	山本 健一 (内線 2118)
企画部 建設専門官	井元 幸司 (内線 3156)
河川、ダム事業関係	
河川部 河川計画課長	鈴木 俊朗 (内線 3611)
道路事業関係	
道路部 道路計画第一課長	田中 利行 (内線 4211)
港湾事業関係	TEL 0832-24-4111(代表)
港湾空港部	港湾計画課長 久米 英輝 (内線 320)